

第34回 グローバル感染症研究セミナー



2024年12月10日
16:00-17:00

参加登録はこちら

<https://forms.gle/8bXn8HJNiRQfZ3gK6>



演者：犬塚 義 先生

京都大学医学部附属病院 消化器内科 特定助教

ハイブリッド開催（Zoom、グローバル感染症研究センター棟1F多目的室）

ゲノムワイドCRISPRスクリーニングにより特定された Hepatitis B Virus感染の宿主依存因子

近年、ゲノムワイドCRISPRスクリーニング手法による宿主因子の同定がウイルス学領域で注目を浴びている。今回、未知のHBV宿主依存性因子を同定することを目的にゲノムワイドloss-of-function CRISPRスクリーニングを行った。はじめに蛍光タンパク質RFP遺伝子をゲノムに組み込んだHBVレポーターウイルス(HBV-RFP)を開発した。ScreeningによりHBV感染の宿主依存因子として上位100遺伝子の中から肝細胞で発現を認める63遺伝子を決定した。さらに初代ヒト肝細胞を用いてsiRNAによるノックダウンとHBV感染実験を行い、複数のHBVプロウイルス遺伝子を絞り込み、未知の新たな因子を見つけた。ゲノムワイドCRISPRスクリーニングは新規に開発したHBVレポーターウイルス(HBV-RFP)を用いることにより、HBVにおいても網羅的な宿主因子の特定に強力な効果を発揮した。

本セミナーでは上記の研究を中心に、レポーターウイルスを用いた新たな取り組みについても概説する。

世話人 内田 宅郎
(グローバル感染症研究センター 講師)

セミナー問合せ先

大分大学グローバル感染症研究センター共同利用・共同研究係 (5444)
TEL 097 (586) 5444 E-mail glocal@oita-u.ac.jp